

SAFETY SUPPORT NEWS

セーフティサポートニュースとは・・・

これまで、関東地方整備局では管内で発生した工事事故に関する情報を発信することで、安全対策の強化や類似事故の防止に取り組んで来ました。

この度、これまでの取り組みに加えて、関東地方整備局発注の工事現場における事故防止に関する取り組みや、安全パトロールによる点検結果、盗難情報などを幅広く紹介する『セーフティサポートニュース』を発行することと致しました。

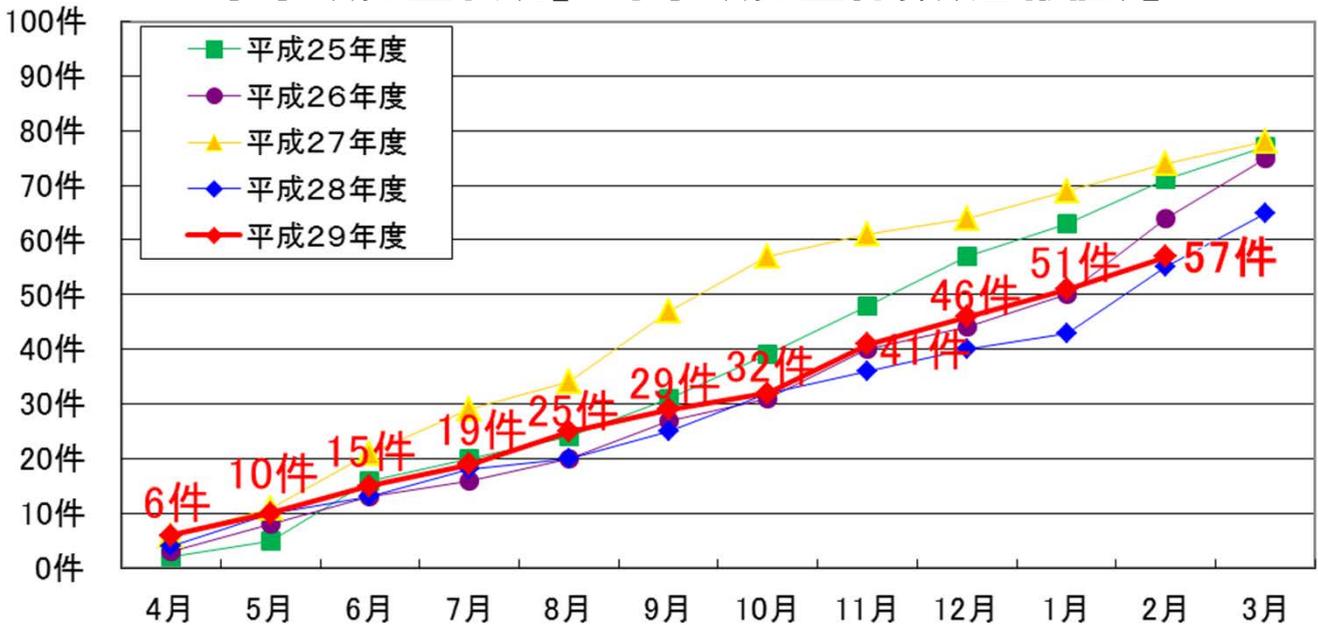
工事現場におけるさらなる安全対策の支援となるよう、情報を配信していきます。

== 今号は、直轄工事・業務における安全対策事例をご紹介します ==

Contents

- 工事事故発生状況【2月事故発生件数（速報値）】
- 安全対策事例 No.1 利根川上流河川事務所管内／樋管改築工事
- 安全対策事例 No.2 宇都宮国道事務所管内／橋梁補修工事
- 安全対策事例 No.3 利根川ダム統合管理事務所管内／調査業務

工事事故発生状況【2月事故発生件数(速報値)】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平成25年度	累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	16件 (11件)	20件 (4件)	24件 (4件)	31件 (7件)	39件 (8件)	48件 (9件)	57件 (9件)	63件 (6件)	71件 (8件)	77件 (6件)
平成26年度	累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	13件 (5件)	16件 (3件)	20件 (4件)	27件 (7件)	31件 (4件)	40件 (9件)	44件 (4件)	50件 (6件)	64件 (14件)	75件 (11件)
平成27年度	累計 (月毎)	6件 (6件)	11件 (5件)	21件 (10件)	29件 (8件)	34件 (5件)	47件 (13件)	57件 (10件)	61件 (4件)	64件 (3件)	69件 (5件)	74件 (5件)	78件 (4件)
平成28年度	累計 (月毎)	4件 (4件)	10件 (6件)	13件 (3件)	18件 (5件)	20件 (2件)	25件 (5件)	32件 (7件)	36件 (4件)	40件 (4件)	42件 (3件)	54件 (12件)	64件 (10件)
平成29年度	累計 (月毎)	6件 (6件)	10件 (4件)	15件 (5件)	19件 (4件)	25件 (6件)	29件 (4件)	32件 (3件)	41件 (9件)	46件 (5件)	51件 (5件)	57件 (6件)	

Topics

- ・直轄工事における2月の工事事故は**6件**発生し、うち4件は公衆損害事故でした。
- ・年度末は工期末を迎える工事が多く、工事事故も増加する傾向にありますので、より一層の安全対策・事故防止への取り組みをお願いします。



安全対策事例 No.1 : 利根川上流河川事務所管内 ＜樋管改築工事＞

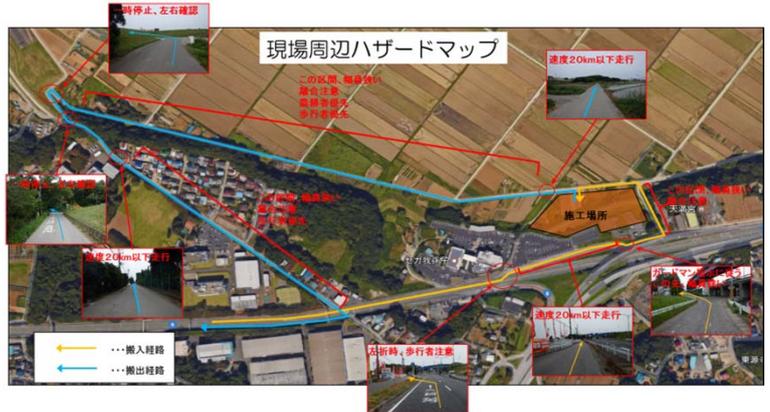
交通災害防止

当該現場は国道に面しているが、現場への進入口が狭隘であり、かつ進入口と交差道路への分岐が連続することから、**工事関係車両の交通災害対策を実施**

**現場への進入口が狭隘で、
交差道路入り口と連続**



対策① ≫ 現場周辺のハザードマップを作成



- ✓ 工事現場周辺の狭隘な道路や歩行者危険箇所を明示したハザードマップを運搬業者などに配付し、危険を周知。
- ✓ 国道からの進入口に交通誘導員を配置し、誤進入や歩行者との接触を防止。

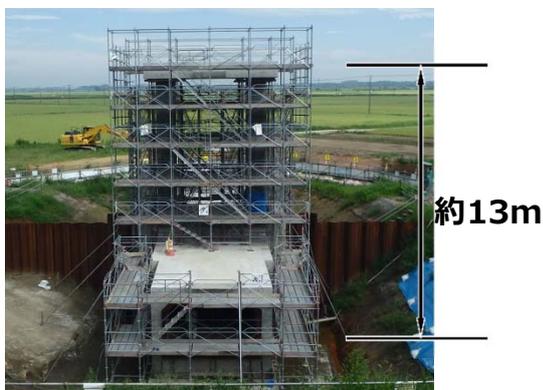
対策② ≫ 国道からの進入口に交通誘導員を配置



墜落災害防止

足場上での高所作業が発生することから、**作業員の墜落災害対策を実施**

地上約13mの足場上での高所作業



対策① ≫ 朝礼時に安全帯の着用を確認



対策② ≫ 音声案内による注意喚起



- ✓ 単管パイプに安全帯をかけ平均台を歩行することで、体調の確認と併せて安全帯の点検及び着用を確認。
- ✓ 足場出入口部に音声案内を設置し、高所作業における安全意識を高める。



安全対策事例 No.2 : 宇都宮国道事務所管内 ＜橋梁補修工事＞

架空線等の損傷事故防止

既設橋梁直下での作業となり、重機や工事関係車両の往来が頻繁に発生することから、**架空線及び上空構造物の損傷事故対策を実施**

⚙️ 橋梁直下での作業となり、
上空に架空線や構造物が近接

👍 対策 ≫ ハンドルカバーを活用した注意喚起



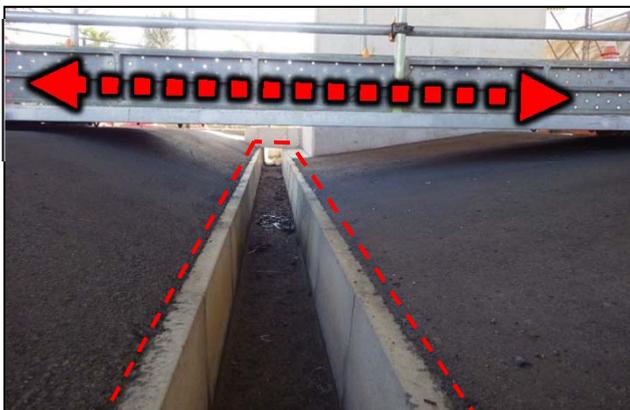
- ✓ 従来の三角旗・のぼり旗・防護管の設置による架空線等の損傷防止対策に加え、接触の危険がある車両に注意喚起表示を貼付したハンドルカバーを取り付け、発進前の安全確認を促進。

安全な作業環境の確保

作業ヤード内に既設の排水側溝（開渠型）があり、作業員が跨いで通行する危険があったことから、**安全な作業環境を確保するための対策を実施**

⚙️ 転倒の危険がある開渠型の排水側溝
の上を作業員が通行

👍 対策 ≫ 仮設の安全通路を設置



- ✓ 作業員が安全に通行できる仮設通路を設置することで、転倒・つまづき等による労働道災害を防止



安全対策事例 No.3 : 利根川ダム統合管理事務所管内

<調査業務>

落石・滑落事故防止

山間部での調査であり、調査エリアには落石や滑落等の危険箇所が存在していることから、労働災害を防止するための対策を実施

山間部の調査では法面や急傾斜地などの危険箇所が存在

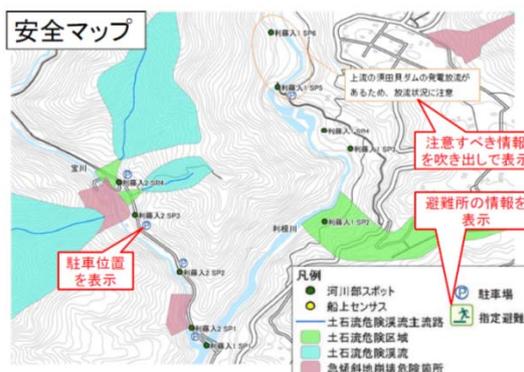


- ✓ 事前調査結果を踏まえた第三者（防災技術者）の指導により調査時の危険を注意喚起。
- ✓ 土石流危険区域や急傾斜地崩壊危険箇所、その他注意箇所等を明示した安全マップを所持し危険箇所を把握。

対策① >> 第三者による危険箇所についての指導



対策② >> 安全マップ・安全マニュアルの作成



危険動物対策

山間部での調査ではスズメバチの巣への接触の危険や熊・マムシとの遭遇の危険があることから、危険動物対策を実施

危険動物との接触・遭遇



対策 >> 抗体検査の実施、対策グッズの携行



- ✓ 事前にハチ抗体検査を実施し、蜂毒アレルギーの有無やアナフィラキシーの危険を把握。
- ✓ ポイズンリムーバーや熊スプレーを携行することで、接触・遭遇時の危険に備える。

問い合わせ先

関東地方整備局 企画部 技術調査課 安全施工担当
048-600-1332

「地域インフラ」2017
サポートプラン関東